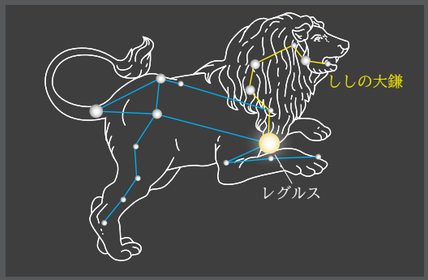


しし座

春の訪れとともに、東の空から堂々と昇ってくるのが「しし座」です。この星座は、紀元二世紀にギリシャの天文学者プトレマイオスが定めた 48 の星座の一つで、黄道十二星座としてもおなじみです。モデルとなったのは、ギリシャ神話に登場する「ネメアの森の人喰いライオン」だといわれています。

神話によると、このライオンは刃物も通さないほど頑丈な皮を持っており、村人たちを震え上がらせていました。そこで立ち上がったのが、英雄ヘルクレスです。彼は弓矢も剣も効かないこの怪物を相手に、なんと素手で立ち向かい、三日三晩の大格闘の末についに退治しました。その後、ヘラクレスをひどく嫌っていた女神ヘラが、ライオンの勇敢な戦いぶりを称えて星空に上げ、星座にしたと言われています。

しし座を見つける一番の目印は、ライオンの頭から胸にかけて並ぶ「ししの大鎌」と呼ばれる星の並びです。鏡文字の「？」の形に見えるこの並びは、西洋で使う草刈り鎌に似ていたため、この名前で親しまれてきました。その大鎌の末端で白く鋭く輝くのが、一等星の「レグルス」です。ラテン語で「小さい王」という意味を持つこの星は、まさにライオンの心臓の位置にあり、王者の風格を漂わせています。

しし座が南の空に高くかかる頃、地上ではいよいよ本格的な春がやってきます。レグルスを筆頭に、力強く輝く星たちを結んで、夜空にどっしりと横たわるライオンの姿を描いてみてください。

参考図書：全天星座百科（藤井旭著 / 河出書房新社）、5文字で星座と神話（すとうけんたろう著・イラスト、左巻健男監修 / 講談社）

今月の見どころ星どころ

夜空に輝く「春のダイヤモンド」

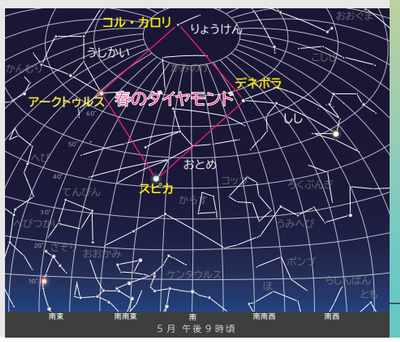
文・浜松市天文台
村松 大河

風も穏やかになり、夜の散歩が心地よい季節になりました。今月は、春の夜空の集大成ともいえる大きな図形「春のダイヤモンド」を探してみましょう。

まずは、先月ご紹介した「春の大曲線」を思い出してください。北斗七星の柄から続くカーブの先に、オレンジ色のアークトゥルスと、白く輝く真珠色のスピカが見つかりましたね。今月はこの二つの星を基準にして、さらに二つの星を繋いでいきます。

アークトゥルスとスピカから西側（右側）にある、しし座の二等星「デネボラ」を見つけ、これら三つを繋ぐと「春の大三角」が完成します。さらに天頂に近い方向へと視線を移すと、りょうけん座の「コル・カロリ」という星が控えめに光っています。これら四つの星を全て結んでみてください。夜空の広範囲を占める巨大な菱形、「春のダイヤモンド」が姿を現します。

春の星々は、冬の一等星たちと比べると控えめな輝きが多いのですが、こうして特定の星をつなぐことで、天球上における正確な位置関係を把握することができます。初夏の気配を感じる 5 月の夜、頭上に広がる巨大な宝石をなぞりながら、宇宙の広がりを体感してみてはいかがでしょうか。星座という枠組みを超えて夜空全体を見渡すことで、昨日までとは違う空の広がりを感じられるはずですよ。



参考図書：かならず見つかる星座の本 春の星座を手でさがそう（藤井旭著 / 偕成社）

星空クイズ

5 月上旬に極大を迎える「みずがめ座η（エータ）流星群」。この流星群の元となる塵を放出した有名な彗星は何？

A　百武彗星
B　ハレー彗星
C　エンケ彗星

答えは中面へ

「星空案内」2026 年 5 月号 制作・発行

浜松市天文台
〒430-0836　浜松市中央区福島町 242-1
TEL：053-425-9158　E-Mail：hao@city.hamamatsu.shizuoka.jp

浜松科学館
Hamamatsu Science Museum
〒430-0923　浜松市中央区北寺島町 256-3
TEL：053-454-0178　E-Mail：info@mirai-ra.jp　www.mirai-ra.jp

星空案内

浜松市天文台と浜松科学館がお届けする今月の星空情報

2026 5

2026 年 5 月
上旬　22 時ごろ
中旬　21 時ごろ
下旬　20 時ごろ

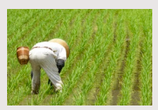
惑星の位置は
上旬から下旬にかけて
少しずつ移動します

5 月の天文現象

2 日　満月 / 八十八夜
5 日　【立夏】太陽黄経 45°
10 日　下弦
17 日　新月
21 日　【小満】太陽黄経 60°
23 日　上弦
31 日　満月（本年最小）

上の星図は、空にかざして
実際の方角と合わせてご覧ください。

爽やかな風が吹く 5 月の浜松。和名の「皐月」は田植えの月を意味し、地上では季節が着実に進んでいます。夜更けの空には「こと座のベガ」が姿を現すようになり、少しずつ夏の気配も感じられます。ゴールデンウィークは、浜松まつりも開催されますが、のんびりと夜空を見上げるのはいかがでしょうか。



浜松市天文台

OK 天候不良開催　NG 天候不良中止

ウェブサイトはこちら

イベント情報

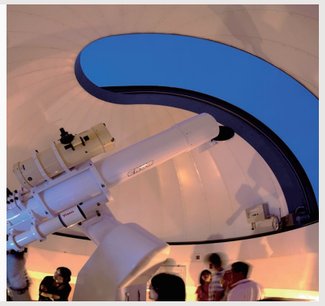
天文台ウェブサイトよりお申込みください。

5/2・9・16・23・30（土）　星空観望会
宇宙へのとびら in はままつ

季節の星座、星雲・星団、月、惑星などを観望します。

NG

時 間　19:30～21:00
会 場　天文台屋上
申し込み　開催日３日前の水曜 13 時から受付（30 分ごと先着 20 組）



5/1（金）　親子天文教室

小学生親子向けの天文教室です。
お話と観望を行い、雨天時は工作を行います。

OK

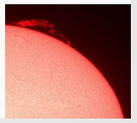
時 間　19:00～20:30
会 場　2F 講座室 / 天文台屋上
申し込み　4/22（水）13 時から受付（先着 20 組）

5/10（日）　太陽・昼間の星観望会

黒点、プロミネンスなど太陽が活動する様子や、
昼間に見える天体を観望します。

NG

時 間　14:00～16:00
会 場　天文台屋上
申し込み　予約の必要はありません。直接天文台にお越しください。



5/10（日）　望遠鏡講座～望遠鏡の「困った」解決～

望遠鏡の仕組みを学び、実際に操作を体験します。
使い方の相談、購入前の検討のヒントに。

OK

時 間　19:00～21:00
会 場　2F 講座室 / 天文台屋上
申し込み　4/29（水）13 時から受付（先着 5 組）

※望遠鏡持ち込み OK

5/16（土）　天文ミニ講座～今夜の星空がもっと楽しくなる～

星座と今夜の星の見どころについて、星空案内人がお話します。星空を見るのがより楽しめます。

OK

時 間　18:30～19:20
会 場　2F 講座室
申し込み　5/13（水）13 時から受付（先着 10 組）

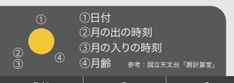
裏面のクイズの答え：正解は、B（約 76 年周期でやってくるハレー彗星の塵が、この流星群を起こします。）

星空を楽しむ　空にあらわれる“非日常”

文・浜松市天文台事業協力者の会　赤峰恭太郎

天文現象が起きると、ニュースや SNS で天文への社会的関心が高まります。普段は夜空を見る機会がなくても「珍しい現象なら見てみようかな！」という気持ちになりますよね。それは「非日常を楽しみたい」という私たちの本能かもしれません。しかし、昔の人々にとっては、天文現象が一大事件として扱われる場合もあったようです。例えば、日食や月食は不吉と考えられていました。古代においては、規則正しい動きを繰り返す太陽や月は秩序の象徴であり、それらが欠けることは「秩序の崩壊」と思われていたようです。突如として長い尾を引いて現れる彗星もまた、不吉の象徴でした。

過去→現在→未来という時間軸で生きる現代人に対し、昔の人々は季節や日々のサイクルの中で暮らしていました。いつまでも続くと思っていた世界が、突然おかしくなってしまうのですから、その恐怖は計り知れません。そんな恐怖を抱きつつも「あの現象は一体何だろう？」という好奇心が上回った人たちが、現代科学の基礎をつくったのかも…？などと想像してみたりしています。



日付	月の出	月の入り	月齢	月相
5/1	18:19	4:15	13.6	
2	19:20	4:44	14.6	満月
3	20:20	5:18	15.6	
4	21:17	5:57	16.6	
5	22:11	6:42	17.6	
6	22:59	7:33	18.6	
7	23:41	8:29	19.6	
8	--:--	9:29	20.6	
9	0:17	10:30	21.6	
10	0:49	11:31	22.6	下弦
11	1:18	12:33	23.6	
12	1:45	13:36	24.6	
13	2:12	14:41	25.6	
14	2:40	15:49	26.6	
15	3:10	17:01	27.6	
16	3:46	18:17	28.6	
17	4:30	19:34	0.3	新月
18	5:23	20:48	1.3	
19	6:26	21:54	2.3	
20	7:37	22:47	3.3	
21	8:51	23:31	4.3	
22	10:03	--:--	5.3	
23	11:10	0:06	6.3	上弦
24	12:14	0:36	7.3	
25	13:15	1:03	8.3	
26	14:15	1:28	9.3	
27	15:14	1:52	10.3	
28	16:13	2:18	11.3	
29	17:13	2:47	12.3	
30	18:12	3:19	13.3	
31	19:11	3:56	14.3	満月

浜松科学館

ブログはこちら

プラネタリウム番組情報

解説員がライブ解説する「プラネタリウム」をお楽しみいただけます。

プラネタリウム

天竜浜名湖鉄道 星空紀行
天浜線の車窓や沿線の星空を見に行きませんか？

平日	14:20～15:15
土日祝・5/1	13:00～13:55 15:40～16:35

星空マルシェ
気軽に観られる生解説のプラネタリウムです。

平日	15:40～16:20
土日祝・5/1	10:30～11:10

キッズプラネタリウム

きらきら☆こんやのおほしさま
みんなで一緒に星を見よう☆

土日祝・5/1	11:30～12:05 14:20～14:55

夜の科学館　特別投映

星降る茶畑
静岡といえばお茶！お茶と星のお話です。

5/23（土）　18:00～18:40
19:00～19:40

天体観察会

まちなか天体観察会
～望遠鏡で太陽を見よう～

NG

5/24（日）　14:00～16:00

浜松科学館プラネタリウムの 40 年

column
文 / 浜松科学館 天文チーム 小栗・長嶋

浜松科学館は今年の５月１日に 40 周年をむかえます。ということで当館のプラネタリウムの 40 年間を振り返ってみましょう。

当館の初代プラネタリウム投映機は「インフィニウム 21D 型」という投映機です。科学館が開館した昭和 61 年から平成 17 年までの間、きれいな星空を投映してくれていました。投映できる星の数は１万５千個。開館当時の最新式コンピュータ、三菱電機 MULTI16-IIでプログラムを組んで８インチフロッピーディスクに書き込み、それをプラネタリウムの制御盤に差し込むことで機器類をプログラム通りに動かすことができました。星空以外の画像の投映はスライド投映機が主だったので、番組はほぼ静止画のみ。紙芝居のように、絵などが一枚ずつ切り替わっていく投映方法でした。

▲インフィニウム 21D 型

ところで、スライドもフロッピーもご存じない方が多いかもしれませんね。スライドは印刷した写真のようなもの、フロッピーはメモリーカードのようなものだと思ってください。

その後、二代目のプラネタリウムへと機器更新されました。現実の星の見た目に近いシャープな光で２６万５千個の星を投映できる「インフィニウム S」、６台のプロジェクタを制御してドーム全体に４k 画質の映像を投映できるデジタル式プラネタリウム「SkyMax DS システム」、これらを合わせて「ジェミニスターⅢ」と呼びます。このジェミニスターⅢを設置したのは、浜松科学館が全国初でした。この頃から、投映素材や制御をデジタル化したり、プラネタリウムドーム全体に動画を投映できたりするシステムが、全国的にもだんだんと主流になってきます。デジタル化が進んだことで、過去未来の星空や、地球以外の惑星から見た星空なども表現できるようになりました。

▲ジェミニスターⅢ インフィニウム S

しかしジェミニスターⅢも更新から 15 年以上が過ぎ、だいぶ疲れがたまってきてしまいました。そこで、2022 年に三代目となる光学式プラネタリウム「ケイロンⅢ」と新しいデジタルプラネタリウムシステム「バーチャリウムII R7」が同時に導入されました。ケイロンⅢではおよそ１億個の星を映し出すことができ、星の瞬きも再現することができます。ケイロンⅢが映し出す満天の星は思わず息を呑んでしまうほどの、圧巻の美しさです。

▲ケイロンⅢバーチャリウムII R7

このように、40 年間でプラネタリウムの機械も、投映の方法も大きく進化しました。プラネタリウムだけでなく、浜松科学館は今後もどんどん進化を続けていきますので、これからもたくさん遊びに来てくださいね。